

なみおと

不定期刊

発行責任者 田口宏昭

森国久顕彰会

〒860-0084

熊本市北区山室 6-8-1

Tel 096-295-0882

写真展を開催

「イコット」で

9月21日よりおよそ3週間にわたり、「本と歴史の資料館イコット」(10月で開館二周年)で森国久顕彰会主催の「天草五橋と森国久」をテーマに写真展を開催する。

天草五橋と森国久

森国久(初代龍ヶ岳町長)は、激動の昭和を生きた。

天草架橋運動を実現に導き、天草諸島の国立公園編入実現に尽力した異色の地方政治家である。来年二〇二六年は、天草五橋開通60周年・雲仙天草国立公園編入70周年の年にあたる。

この機会に、写真展を開催さ



会場のイコット(上天草市)

会期は9月21日(日)から10月15日(水)まで。ただし月曜は休館。9時から閉館時間まで(最終日は13時まで)。場所は「本と歴史の資料館イコット」。主催は森国久顕彰会、後援は上天草市と天草八代シーライン建設促進民間期成会。

【寄稿】

いきなり団子にいきなりの挑戦

久保真央(松島出身)「にのや本舗」店長

私は二〇二四年に松島に転居し、たまたま入社した会社でいきなり団子のお店を任せられ、未経験ながらいきなり団子作りに挑戦しています。

いきなり団子は、熊本県の郷土菓子として有名ですが、私自身はからいもがあまり好きではなく、いきなり団子のボソボソとした感じと、1個食べるとお腹いっぱいになるほどの重たさが苦手でした。また改めてスタッフ等に聞くと私と同じ思いだったようです。紅はるかの甘味と柔らかさを十分に引きだし、小さく柔らかく食べやす

【写真＝開発した商品の代表例】



くして、唐芋が苦手な私でも美味しくいただける一品に仕上げる事が出来ました。天草ではあまり馴染みのないいきなり団子でしたが、開店

各道の駅での販売や各地でのイベント出店等、更に販売網も広げ、微力ながら自分達のできる形で地域貢献をし、故郷に恩返しが出来たらと思っています。



いきなり団子とスイーツのお店 《にのや本舗》〒861-6102 熊本県上天草市松島町合津 7915-74 [youme mart] すぐそば

【抱負を語る】



顕彰会の新人スタッフ 有馬明広

現在私は熊本市中央区に在住しながらも天草市本渡町で写真館を営んでおり、天草との往来は頻繁です。

顕彰会との出会いはFacebookでのやりとりがきっかけでした。

豪雨被災、お見舞い申し上げます

8月の豪雨によって、被害を受けられた方々に、心からお見舞い申し上げます。一日も早い復興を祈ります。

森 国久顕彰会 顧問・役員一同

私は「天草古写真カラー化プロジェクト」という活動を行っており、天草に残る古い白黒写真を募集し、デジタル手彩色という技術で

丁寧カラー化したうえで、写真展を開催しています。あるとき、祖父が所蔵していた写真について情報を求めてFacebookに投稿したところ、森純子さんからご連絡をいただきました。それが縁で顕彰会との交流が始まりました。

(以下第二面第五段に続く)

人とつながる

ふるさとの海辺に集う

先日、天草の龍ヶ岳町大道地区に実家のある女性から案内を受け、「交流会」に参加した。彼女によると、両親が老いてきたので週末には実家に帰っているが、町が過疎化し若い人たちが地元で集える場所がないので、空き家になった近所の祖父の家を開放し、月一回週末に開催している」とのこと。



龍ヶ岳町大道 池の浦港

幸い主催者のご両親にも会う機会を得られ、養殖漁業や遠洋漁業への支援、選挙時の支援など、森國久の思い出話を聞かせて頂き、偶然の縁に驚くとともに感謝した。

夜の交流会には、県内外からの参加者、子供連れも交えておよそ15名が参加した。彼女の手料理や、各自持ち寄りのご馳走で心温まる楽しい酒宴は夜遅くまで賑わった。帰り際に主催者の彼女は「人と人を繋ぎ、その橋渡しを楽しんでるだけですよ」と軽やかに応えてくれた。彼女との出会いから、故郷に向き、縁を繋ぐことが大切であると感じた。

(jm)

天草古写真カラー化プロジェクト

本会会員で熊本在住の若い写真家、有馬明広さんが「天草古写真カラー化プロジェクト」写真展の企画案内と開催の目的などについて記事を作成。

☒ ☒ ☒ ☒ ☒

白黒写真の時代―すなわち明治大正昭和の「少し前の天草」を、色を通じて世代を超えて共有し、家族や地域の中での対話を生み出すことを目的としています。懐かしくて誇らしい天草の

姿を未来世代へつなぐ活動です。今年も天草の國久氏が遺



会場＝《ポルト》(天草市)

した貴重な写真もデジタル手彩色にてカラー化し、順次公開予定なので、ぜひ会場にお越しいただき、当時の天草の息吹をリアルに感じていただければ幸いです。

今年度の直近の企画は以下の通りですが、残念ながらこの会報がお手元に届く頃には会期が終わっているかも知れません。

◎ 8月12日(火) ～ 8月19日

(火) 天草宝島国際交流会館ポルト(天草市)〔展示期間終了〕

◎ 9月9日(火) ～ 15日(月) 天草文化交流館(天草市)

*有馬明広＝天草出身、写真館経営、森國久顕彰会会員、事務局スタッフ。公的な撮影活動多数、県内ロケーション撮影実績豊富、写真洗浄ボランティア活動、テレビ出演など多忙

連載 森國久を語る

選挙と森國久

この夏、参議院選挙が行われたが、選挙後の敵味方の確執や怨恨の強弱は、民主主義の成熟度を測るバロメータである。かつての天草地方は政争の苛烈さで知られたが、これにまつわる一つのエピソードを、龍ヶ岳町出身の農民文学者、島一春が天草の郷土紙「みくに」に連載されたエッセーのなかに書き残している。

森國久が龍ヶ岳町長であった当時、島氏は結核を患い、家族の暮らしは困窮を極めていた。耐えかねた彼は生活保護の申請をしたが、担当のケースワーカーは難癖を付けてこれを受理することを拒んだ。

思い余った彼は、町長選挙では敵陣営であった森國久町長に手紙を書いた。対立候補の運動員である自分が、恥を忍んで生活の困窮を訴えた。すると島氏にとって意外なことに、國久は彼にさっそく返事の手紙を届け、「政治の究極の目的は、みんなが平和で豊かな生活を送れる社会を

築くことであり、あなたの現状を見逃すことはできない」と励ました。手配の結果、島氏は速やかに生活保護を受給できるようになった。

島氏は森國久が世間の常識とは違って、敵陣営の人間に報復しない政治家であることに感じ入ったのである。

選挙前後の敵味方の間の確執や怨恨を、森國久は敢えて意に介さなかった。島氏はこのような姿勢を、森國久は「さわやかに飛び越えることのできる男であった。」と評した。

森國久にとって民主主義は有権者の頭数を奪い合うことではなく、政治共同体の平和と豊かさを実現する方法を競い合う理想の政体なのであった。選挙時はどれほど火花を散らそうとも、それが終われば互いに健闘をたたえ合う関係をもしろ「良し」とする姿勢ある意味スポーツマンシップを貫いた人である。(jm)

【抱負を語る】

(第一面第六段末尾から続く)

正直なところ、当初の



ビジターセンター展望所

私は森國久という人物についてほとんど何も知りませんでした。しかし、その生涯を知るにつれ、深い感銘と衝撃を受けました。私が生まれ育った天草に、このような偉大な方がいたという事実に関心を持っていただけたのです。普段何気なく通っている道や橋、そして見慣れた風景が、森國久氏の身を削るような努力によって築かれてきたものであることを知り、それ以来、天草に帰るたびにその重みを感じることができました。祖父の写真が結んでくれたこの縁に感謝しつつ、天草出身であることに改めて誇りを抱き、天草の未来についても想いを巡らせるようになりました。

事務局員、スタッフとして自分の得意分野である写真やIT関連の技術や経験を活かして、貢献していきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いたします。

特集①

〈二人の森〉

森國久と森慈秀は天草五橋の実現にどうかかわったか？
似ていて違う二人の森の二人三脚

森慈秀と森國久という同姓異名の「二人の森」はともに天草架橋の実現に深く関わった。しかし関わり方の違いを正確に理解している人は意外と少ない。そこであらためてこの機会に、従来の「天草五橋神話」を一旦解体するつもりで、二人の森の関わり方の違いを記録として留めておく。

森慈秀氏による架橋提案―お蔵入りした夢―

熊本県立図書館所蔵の『熊本県議会会議録』を確認したところ、森慈秀氏は第二次世界大戦前の昭和11年12月(46歳)に開かれた熊本県議会で九州本島の三角と大矢野島に橋を架け、以ては当面海路で結ぶことによつて二十万郡民の住む天草を窮状から救つてくれと当時の官選知事、藤岡

長和に提言した。

しかし、相当大きな予算措置をとまなうという知事側の回答があり、話はそれ以上進まず、以降、再度議会で議論されることはなかった(熊本県議会会議録で確認済み)。

折しもその年は二・二六事件が起こり、翌昭和12年には日中両国が全面戦争に突入していった。雲行き怪しい国内

外のこのような政治状況は華僑の夢をかなえるには厳しすぎた。その結果、慈秀氏のすばらしい構想は永らくお蔵入りとなった。

実業の才に恵まれた慈秀氏はその後の18年間余りの年月を、日中戦争、太平洋戦争、朝鮮戦争の特需の恩恵に与り財を成した。

森國久氏と架橋運動の起点となつた離島振興法の成立

しかし昭和28年に成立した離島振興法が森慈秀氏の夢を実現させる決定打となる。法案の最終段階において、当時若き樋島村長であつた森國久氏は熊本県勢一行を率いて国会内で開催された法案成立決起大会に乗り込み、法案の修

正作業の一員になる。

こうして天草が法の指定対象地域となるように尽力した人物こそが森國久氏である。

因みにこの時点では森慈秀氏は離島振興法にも架橋運動とも無縁であつた。

天草架橋期成会

における二人の森

昭和28年(一九五三年)、天草架橋を一橋ではなく五橋として現実化しようという蓮田敬介熊本県議の提唱に森國久氏が賛同し、昭和30年(一九五五年)に天草架橋期成会が発足する。当初、熊本県離島振興協会副会長、天草離島振興協議会会長であつた森國久氏(43歳)は市町村代表となつた。このとき森慈秀氏(65歳)は複数名の副会長の一人となつた。

「二人一円献金」運動の神話と眞の提唱者―森國久氏

期成会が発足する時点で森國久氏は、「二人一円献金」運動の実質的な提唱者であつた。全国離島振興協議会の理事会の席で、森國久氏と著名な民俗学者として知られる宮本常

一氏との間で離島振興をめぐる論争が起こり、宮本氏から示唆を受けた森國久氏が考案した策が、実は「一人一円献金」であつたのである。「一人一円献金」をめぐるこれ以外の話は、残念ながら根拠のない作り話であり神話である。

神話は一旦解体し、史実にもとづく歴史として再度構築し、後世に伝えなければならぬ。

二人の森の二人三脚

それはさておくとして、森

國久氏は期成会が本格稼働しはじめた昭和31年(一九五五年)に44歳で副会長に就任し、天草架橋建設を目指す陳情団を率いて東京都の間を行き来する。森國久氏よりも22歳も年長の森慈秀氏(66歳)も老体に自らむち打ち、陳情団の一員として重労働に等しい陳情行動を、熱意を以て共にし、

森國久氏とは二人三脚の同志の間柄であつた。(旧栖本町出身の県議会議員、蓮田敬介氏を加えるならば三人四脚の同志)

開通式で

リボンを切つた森慈秀氏
森國久が48歳で急死した五

年後の昭和41年(一九六六年)

の開通式には、期成会の役員で大矢野町長でもあつた森慈秀氏(76歳)が主役の一人として出席した。そして「夢をかなえた男」、「橋を作つた男」と評されて県内の報道機関に注目される。

しかも異例なことに、生前に2号橋脇の公園広場に大きな銅像が建立されたことで一躍脚光を浴び、「天草五橋の森慈秀」として有名になった。

森國久氏は森慈秀氏の恩人

森國久氏は、このようにして父親よりも年上の森慈秀氏の永年の夢を、一橋ではなく五橋、つまり五倍の計画に

てかなえ、しかもそれを天草全島民の実現可能な夢とするため、架橋運動で最も大きな陰の功績を残したのである。とすれば、実はこれら「二人の森」の二人三脚によつてこそ、技術という規模といい、当時の日本では画期的な天草五橋が完成されたのである。

たとえ一地方史を刻み出た事であっても、客観的な根拠資料を提示し、史実に基づいて正しく公平な視点で記録を

残さなければならない。今こそ、従来の虚実混在の「天草五橋物語」に終始符を打たなければならないのである。

天草五橋実現のために心血を注いだ二人の森

ともあれ二人の森は共に昭和の激動期を生き、立場は違ふが、天草五橋の完成のために心血を注ぎ、天草の未来を描き、住民の福祉を追求しつづけた天草の良質の政治家である。二人の森に眞実の栄光あれ。(森國久顕彰会)

【参考資料】

『熊本県議会会議録 昭和11年』(熊本県立図書館所蔵資料)、田口宏昭「森國久と草の根民主主義―天草架橋と離島振興と離島創生に命を懸けた不屈の生涯―」(熊日出版)、森純子・段下文男編著「地方創生に駆けた男―天草架橋・離島振興に命を賭した森國久」(熊本出版文化会館)、森國久顕彰会編「大いなる遺産―森國久、ウイキペディア「森國久」ほか



ミネルヴァのフクロウは黄昏に飛び立つ

天草五橋着工決定の知らせが地元へ伝えられた昭和36年（一九六一年）から70有余年が経過した今日、天

九州本島と天草をむすぶ

運動の意義や抱負なりを語って頂いた。

草シーライン構想は、県はもちろんのこと天草側と八代側の関係の方々の地道な努力の積み重ねを通して、一歩ずつ前進している。この時期にふさわしく、シーライン建設促進期成会を目指す民間団体の理事の方に、促進

天草・八代シーライン促進期成会の活動に参加して

川崎 卓（天草・八代シーライン建設促進民間期成会理事）

今年八月十日から十一日にかけての大雨により、私が住む上天草市は甚大な被害を受けた。床上浸水や土砂崩れで家の家の損壊・道路の寸断等々。日常生活が脅かされる大災害となった。二号橋と三号橋の間で起こった土砂崩れは、長時間の天草五橋の通行止めを引き起こした。天草全体が離島と同じような状態となった。加えて宇土半島の五七号線と二六六号線でも、

土砂災害による通行止めが発生し、五橋を渡り切ったとしても熊本市等との行き来が出来なかった。五橋とは別ルートでの橋が必要なのだと痛感させられた。

私は、今年六月から天草・八代シーライン建設促進民間期成会の理事として活動に参加することになった。期成会に参加して、開通してから六十年を迎えようとしている五つの橋が補修を受けながら使用できる状態を保っている事実やシーライン開通による天草地域をはじめ県南・南九州地域への経済効果など多くの事を学ばせていただいている

図=天草・八代シーライン構想。

特集②

二人の森の混同に、終止符を打つ

天草五橋と言え
ば森慈秀氏の名
がよく知られて
いる。

森 國久も

森 慈秀も

出身地 上天草市龍ヶ岳町樋島
(旧天草郡樋島村)

出身地 上天草市大矢野町湯
島(旧天草郡湯島村)

生・没年月日 明治45年(大正
元年 一九二二年)7月10日生。
昭和36年(一九六一年)6月26日
没(享年48歳)

生・没年月日 明治23年
(一八九〇年)12月5日生。
昭和48年(一九七三年)4月15
日没(享年82歳)

最終学歴 旧制八代中学校卒
(現県立八代高等学校。旧制天
草中学校から転校)

最終学歴 早稲田大学専門部
(同大学に付設された専門学
校。学士の卒業資格無)

銅像の場所 上天草市松島町永
浦島(2号橋と3号橋の間、国
立公園天草ビクターセンター展
望広場)

銅像の場所 上天草市大矢
野町中(大矢野町2号橋北詰
2号橋公園内)

職歴 新聞記者、熊本県警察官、
会社役員、樋島村長、初代龍ヶ
岳村長、同町長、

職歴 熊本県議会議員(一期)、
会社経営、大矢野町長、その
他(熊本県公安委員会委員)

これを機会に
混同に終止符
を打つ。

天草架橋・天草振興に関わる役
職 天草架橋期成会副会長、熊
本県離島振興協会副会長、天草
町村会会長、天草観光協会会長、
熊本県町村会副会長、全国離島
振興協議会副会長、(内閣府)離
島振興審議会委員

天草架橋・天草振興に関わる
役職 天草架橋期成会副会長

森 國久



森 慈秀



賞罰 熊本県近代文化功労者
(一般叙勲は省略)

賞罰 熊本県近代文化功労者
(一般叙勲は省略)